保育・教育思想に基づく保育施設の空間特性

モンテッソーリ教育とハンガリーの保育実践を対象として

SPATIAL CHARACTERISTICS OF CHILD CARE FACILITIES
WHICH BASED ON A THOUGHT OF CHILD CARE AND EDUCATION

Case study on the Montessori education and the Hungarian childcare practice theory

白川 賀津子*, 定行 まり子**

Kazuko SHIRAKAWA and Mariko SADAYUKI

Recently society requires maintaining the quality of child care from architectural viewpoint. The purpose of this research is to clarify the spatial characteristics which based on childcare and educational ideals of each child care facilities. On the basis of "A national guideline for daycare center for children", each child care facilities sometimes adopts specific educational thought. Therefore in this study particularly focuses on two educational methods, "The Montessori education" and "The Hungarian childcare practice theory" which are highly adopted in Japan. To know the spatial characteristics of each educational thought should be important to keep a quality of the future child care environment.

Keywords : Child care facility, Spatial characteristic, Educational thought, The Montessori education,

The Hungarian childcare practice theory

保育施設, 空間特性, 教育思想, モンテッソーリ教育, ハンガリーの保育実践

1. はじめに

1-1 背景と目的

待機児童問題が未だ解決をみない現在, 保育環境をめぐっては改めてその質が問い直される局面を迎えている。保育・教育現場では, 質の向上に向けた取り組みがおこなわれており, 建築分野からの検討も必要とされるところである。

日本では保育所保育指針(以下「保育指針」)に基づき, 保育がおこなわれており^{注1)}, どのような保育を提供すべきかが定められている。保育の質を保つという観点からは, 空間もこれに沿って備えられるべきであるが, 実際には必ずしも実現されているとは言い難い。

「保育指針」には, 具体的方法論の明記はなされておらず^{注2)}, 空間の評価スケール^{注3)}に該当するものも無いためである^{注4)}。

保育施設のなかには, 保育実践や空間特性における具体的方法論を特定の保育・教育思想に求める者もある。全日本私立保育園連盟加盟園の保育施設 2,176 件を対象に昨年末実施したアンケート調査でも, 回答が得られた 364 件(回収率 16.7%)のうち「何らかの保育・教育思想(思想家・メソッド)を参考としている」と答えた保育施設が 194 件(53.2%)にのぼり, なかでもモンテッソーリ教育, ハンガリーの保育実践の採用例が多くみられた(図 1)。これらの思想における著作では, 保育実践や空間における具体的要件が示され

ている。保育・教育思想は一般的には特徴的なものと捉えられるが, アンケート結果からは, 特定の思想で重視される保育実践や空間特性が, 「保育指針」に基づく保育をおこなう一般園でも取り入れられていることが示唆された。すなわち, 「保育指針」と思想の間には共通性があるとも考えられる。そこで本稿では, 実態として採用例の多かったモンテッソーリ教育とハンガリーの保育実践のふたつの思想に着目し, 思想に基づく空間特性が^{注5)}, 「保育指針」に基づく一般園にとっての良質な空間の在り方のひとつとしても提示できるものであるかについて明らかにすることを目的とする。

1-2 既往研究と本稿の位置づけ

保育・教育理念と空間の関わりについての総括的な研究は, 保育・教育学領域では, 子どもの行動に保育空間と保育理念が影響することを明らかにした今川⁴⁾の研究, 建築学領域では, 保育施設における生活者の行動調査から保育方法と保育空間の関わりを考察した遠矢⁵⁾の研究があるが, 保育・教育学, 建築学のいずれの領域でも乏しい状況にあるといえる。一方, 保育実践のうち, 保育形態と空間構成との関わりを扱ったものとして, 細谷⁶⁾の異年齢交流を誘発する空間についての知見や, 西本⁷⁾による異年齢保育のコーナー設定サイクルについて論じた研究など, 特に「異年齢保育」に着

* 日本女子大学大学院人間生活学専攻生活環境学専攻
大学院生・修士(工学)

** 日本女子大学住居学科 教授・博士(工学)

Grad. Student, Graduate School of Human Life Science, Division of Living
Environment, Japan Women's University, M. Eng.
Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's University, Dr. Eng.

目した研究がおこなわれてきており、核家族、少子化などの社会的背景からも重要なものである。また、特定の保育・教育思想を扱った研究では、保育・教育学領域では幅広くおこなわれているものの、建築学領域からの研究は伊藤 8)によるフレーベル研究、川上ら 9)によるシュタイナー研究など、思想に拠る空間特性の基礎的研究に留まり、十分とはいえない。モンテッソーリ教育については、神成ら 10)が実践園での事例調査から教育思想に相応しい空間計画の、高橋ら 11)がモンテッソーリ自身の記述をメソッドの基本的原理と捉え、実践園と非実践園の比較から、建築・設備・家具・道具などの主に3～6歳児を対象とした物的環境の基本的知見を示している。各国特有の保育・教育思想としては、橋本ら 12)によるイタリアのレッジョ・エミリア幼稚園、山田・本杉・千島ら 13)～15)によるフィンランドのパイバゴディ就学前施設などの研究が僅かにあるばかりで、ハンガリーの保育実践についての建築的視点からの既往研究は未だない。

保育・教育思想を扱った既往研究では、前述のとおり思想の原理に基づく空間を扱うものが多い。しかし本稿では、日本の保育施設への応用を前提としているため、保育・教育思想を原理そのものではなく、文化的背景に伴って日本で独自に発展したものとして扱い、そのうえで空間特性の考察をおこなう 注5)。

2. 研究の方法

①出現言語比較、②アンケート調査、③空間事例の3点から考察をおこなう。①では保育・教育思想の一般的な基本原理を得るために、各思想の代表的文献から出現言語の抽出をおこなう。同様に「保育指針」の記述からも出現言語の抽出をおこない、そのうえで、思想独自にみられた出現言語における各思想の特異性、各思想と「保育指針」との共通言語の出現状況から両者の共通性について考察する。次に①で得た思想独自の出現言語を用いた質問項目により、②のアンケート調査を実施し、実施園の回答の有意性から各思想の空間特性の特異性を、全体回答から各思想と「保育指針」との空間特性の共通性をみる。以上の考察から得られた各思想の空間特性が実際の空間に反映される際の具体例を、③各思想の実施園の空間事例にて提示したうえ、まとめをおこなう。

3. 出現言語にみる各思想の特異性と「保育指針」との共通性

3-1 出現言語の抽出

モンテッソーリ教育では、その基本原理を示した『モンテッソーリ・メソッド』 16)、解説書にあたる『モンテッソーリ・メソッド入門』 17)、幼児、乳児の保育に詳しい『幼児の秘密』 18)、『いのちのひみつ』 19)を、ハンガリーの保育実践では、幼児の教育プログラムを示した『ハンガリー保育園の教育プログラム』 20)、乳児の保育に詳しい『新訂乳児の保育・幼児の保育』 21)を両思想の代表的文献として捉え、抽出の対象とした(表1)。これらの文献では主に保育・教育内容における記述を対象に、一方で「保育指針」は全文を対象に名詞・複合名詞の抽出をおこなった。抽出言語は内容ごとに6つに分類し、出現回数の高い順に並べ、図2とした。

3-2 出現言語における各思想の特異性

6つのグループのうち「保育の環境」〈室・家具・設え〉と、「教育に関わる事項」〈教育1〉〈日常動作〉グループで出現した言語の

殆どが両思想から抽出されたものであった。特に〈室・家具・設え〉では物的環境について、〈教育1〉では教具や遊びの種類についての具体的方法論を示す言語が並んだ。

思想別にみると、モンテッソーリ教育では「養護に関わる事項」〈発達〉グループ、「教育に関わる事項」〈教育2〉、〈日常動作〉グループなどで、モンテッソーリ教育からの抽出によるものが多い。また、特定の活動が集中的にみられる時期や現象を表す〈発達〉グループの「敏感期」や「集中現象」、日常動作を美しく丁寧におこなう〈日常動作〉グループの「線上遊戯」、「優雅」、「平衡・均整」など、モンテッソーリ教育に独自の言語もみられた。

ハンガリーの保育実践では、「保育の環境」〈設備〉グループ、「養護に関わる事項」〈健康・衛生〉〈関わり〉〈情緒〉グループなどで出現がみられた。また、「空気入替」、「室温変化」、「自然照明」などの衛生環境、「従属関係」、「心理的安心感」などの心理的愛着形成を重視する思想の特徴を表す言語もみられた。思想独自にみられたこれらの言語は、各思想の保育・教育の基本原理における特異性を表すものと示唆された。

3-3 出現言語における各思想と「保育指針」の共通性

「保育指針」からの抽出言語のうち、図2下線部で示した言語は各思想にも出現した言語で、各グループに幾つかの共通言語が見受けられた。例えば「保育のねらい」〈主体性・自我〉グループや、〈社会性〉グループなどが該当し、子どもの主体的な自己活動や、集団生活での社会性が三者に共通して重視されていることを示した。また、「保育の環境」〈保育環境〉グループなどでも共通言語が多数みられた。出現言語比較では、各思想と「保育指針」の間に幾つかの共通性がみられたことから、「保育指針」が各思想を包含するものであることが示唆された。

No.	教育思想の種別※1	n=194 (複数回答)	割合 (%)
1	モンテッソーリ (イタリア)	マリア・モンテッソーリにより確立された幼児教育の方法論。発達遅延児への教育経験から得た知見を基礎とし、子どもを観察することから生まれた。	21.60%
2	ハンガリーの保育実践※2 (ハンガリー)	コダーイ・ゾルターン音楽教育を中心としたコダーイ・メソッドやハンガリーのマイバ保育園を中心とした保育実践。	18.60%
3	レッジョ・エミリア (イタリア)	イタリアのレッジョ・エミリア自治体や広範囲の地域の取組み、参加型協議により培われた教育法。	11.30%
4	フレーベル (ドイツ)	フリードリヒ・フレーベルによる教育思想。子どもが生まれながら持つ神性を自らが発揮することこそが重要と唱えた。	9.80%
5	シュタイナー (ドイツ)	ルドルフ・シュタイナーによる人智学に基づく教育思想。	8.20%
6	ピラミーデ (オランダ)	子どもの自主的な遊びや、保育者との心理的愛着、教育的距離感などを特徴としたオランダ発祥の教育思想。	3.10%
7	ベスタロッチ (スイス)	スイスの教育学者で、現代の幼児教育理論の主要な系譜の一人であるヨハン・ベスタロッチによる教育思想。	2.60%
8	その他 (ルソー、ピアジェ、倉橋惣三、藤森平司、斎藤公子等)		24.70%

※1 本稿では保育・教育思想の呼称を、思想の提唱者、思想家、メソッドなどの通称名を用いる 22)。
※2 ハンガリーのマイバ保育園を中心とした保育実践を本稿ではハンガリーの保育実践と総称する。

図1 採用される教育思想の内訳

表1 検証した文献リスト

No.	著作・文献	著者
M1	モンテッソーリ・メソッド	モンテッソーリ
M2	モンテッソーリ・メソッド入門	白川啓子
M3	幼児の秘密	モンテッソーリ
M4	いのちのひみつ	モンタナーロ
H1	ハンガリー保育園の教育プログラム	バゴニ、ザバディ
H2	新訂 乳児の保育・幼児の保育	コダーイ芸術教育研究所

※ M：モンテッソーリ教育、H：ハンガリーの保育実践を表す。

4. 重要度・該当度の有意性にみる各思想の空間特性

4-1 検証方法

調査時に待機児童が多く確認された政令都市、及び中核市に所在する無作為に選出した保育施設 2,176 件（全日本私立保育園連盟加盟園）（表 2）を対象にアンケート調査を実施した。質問は、前章で各思想独自にみられた言語を各思想の保育・教育原理を表すもの（図 2 網掛部、表 3 下線部）とみなして主に用い、保育施設の諸要室空間や、部分における空間特性の項目として作成した^{注 6)}。各質問項目につき、「重要視する」、「該当する」かについて尋ね、回答の割合を各思想の実践園ごとと全体で示した（表 3）。さらに得られた回答の有意性を χ^2 検定を用いて検証した^{注 7)}。

表 2 アンケート調査の概要

調査期間：平成27年11～12月		方法：郵送による配布・回収	配布数	返送数	回収率(%)
北海道・東北	札幌,仙台市		152	31	20.3
関東	東京23区,川崎,横浜,相模原,千葉,さいたま市		745	123	16.5
中部	静岡,浜松,名古屋		273	60	21.9
近畿	京都,大阪,堺,神戸市		496	65	13.1
中国	広島,岡山市		106	15	14.4
九州	福岡,北九州,熊本,那覇市		404	67	16.5
不明	—		—	3	—
合計	—		2176	364	16.7

4-2 各思想の実施園回答の有意性にみる空間特性の特異性

χ^2 検定の結果、主に「乳児保育室」、「保育室の設え」、「家具」グループなどで有意差が多くみられた。モンテッソーリ教育実践園で有意性を示した項目は、「重要である」が 3 項目、「該当する」が 14 項目であった。「40 歩行やつかまり立ち」、「41 視界に配慮する鏡」、「42 視界に配慮するモビール」など乳児の発達に応じた項目、「45 活動ごとのコーナー配置」、「48 壁や窓向きの机」、「59 十分なフリースペース」など子どもの自己活動に伴う項目、「51 子ども用掃除用具」、「76 排泄時の着脱用ベンチ」の設置、「72 スムーズな水まわり」など、生活習慣の自立を促す項目で特に有意であった。

ハンガリーの保育実践園で有意性を示した項目は、「重要である」が 4 項目、「該当する」が 22 項目とモンテッソーリ教育よりも多い結果となった。「38 月齢・動作別コーナー」、「56 造形コーナー」「58 休憩コーナー」などコーナー設置に関する項目、「15 登降園時集中を妨げない」、「44 コーナーをまたぐ遊び」、「46 継続できる積木コーナー」など遊びの継続性確保に関する項目、「11、17 家庭的雰囲気」など空間の雰囲気にに関する項目、「60～62 専用室」などの専用室確保に関する項目において特に有意であった。

以上の結果から、有意性がみられたこれらの項目が、各思想に基づき保育をおこなう保育施設における空間特性の特異性であることが読み取られた。

4-3 全体回答にみる各思想と「保育指針」の空間特性の共通性

全体の保育施設で質問における回答の該当度が 80%以上は 21 項目、該当度 60%以上は 48 項目であった。重要度・該当度共に 60%以上の回答を示したのは、全 86 項目のうち 23 項目にのぼった。質問項目は前述のとおり、主に両思想に独自の出現言語を用いて作成したことから、保育・教育思想にみられる空間特性が、「保育指針」に基づく保育をおこなう一般園でも受け入れられていることが読み取られた。従って、各思想の空間特性の中にも「保育指針」と共通性があることが確認できたといえる。

表 3 重要度・該当度の割合と χ^2 検定による有意性

		モンテッソーリ n=41				ハンガリー-保育 n=35				全体 n=361				
		重要である		該当する		重要である		該当する		重要		該当		
		%	χ ²	%	χ ²	%	χ ²	%	χ ²	%	χ ²	%	χ ²	
施設全般・共用部	NO.	質問項目												
	1	親子の分離・再会がスムーズ	56.1		65.9		48.6		68.6		51.0		72.9	
	2	各所が筋肉運動に適する	46.3		34.1		40.0		34.3		41.3		35.7	
	3	列をなすのに十分な幅の廊下・階段	56.1		82.9		37.1	※	77.1		55.7		84.2	
	4	遊具用イスを各所に設置	39.0		51.2		54.3	※※	65.7	※※	32.7		37.4	
	5	離着待ち用イスの設置	31.7		34.1		37.1		31.4		30.2		35.7	
	6	廊下・階段がほつく・歩行に適する	63.4		85.4		60.0		85.7		63.4		86.7	
	7	子どもサイズの階段	63.4		75.6		57.1		74.3		64.3		82.8	
	8	子どもサイズの窓	65.9		63.4		51.4		57.1		59.6		70.4	
	9	共用空間に絵画や芸術品の装飾	48.8		70.7	※	54.3		65.7		44.0		55.4	
	10	季節・テーマに合った展示空間	58.5		78.0		51.4		80.0		59.3		79.5	
	11	施設全体が家庭的な雰囲気	73.2		75.6		65.7		91.4	※※	64.0		72.3	
	12	過剰な装飾を控える	70.7		95.1		71.4		91.4		60.9		86.4	
	13	壁花や小動物を設置	63.4		78.0		60.0		82.9		59.0		71.5	
保育室全般	14	子どもの園での様子の掲示	70.7		87.8		65.7		88.6		65.9		89.8	
	15	登・降園時活動中の子どもを集中を妨げない	58.5		61.0		68.6		80.0	※	59.3		61.8	
	16	子どもごとの食事・午睡場所が定位置	56.1		80.5		65.7		91.4		56.8		79.8	
	17	保育室内が家庭的な雰囲気	65.9		80.5		65.7		97.1	※※	63.7		76.7	
	18	幼型の保育室は規定より広い	58.5		61.0		62.9		62.9		60.4		67.6	
	19	各部の設計が子どものサイズ	58.5		78.0		62.9		80.0		65.7		85.0	
	20	子どもの目線にあった窓	63.4		61.0		68.6		68.6		60.9		69.3	
	21	窓からの自然採光のもとで過ごせる	63.4		80.5		54.3		80.0		65.1		83.1	
	22	模様替えが少なく秩序感を保てる	56.1		78.0		51.4		77.1		59.6		82.5	
	23	室内での活動の殆どが保育室内	46.3		68.3		37.1		60.0		39.1		60.0	
	24	太陽光や温かい色の照明	41.5		17.1		48.6		28.6		46.0		28.0	
	25	自然換気や空気の循環に気を付いている	68.3		90.2		60.0		91.4		64.8		88.9	
	26	音が反響しない工夫	48.8		26.8		51.4		45.7		52.1		39.3	
	乳児保育室	27	保育室内に布やラグを多用している	36.6	※	46.3		40.0	※	60.0	※※	23.0		36.0
28		子どもはどこからでも保育士の顔が見える	56.1		70.7	※	62.9		77.1		61.2		82.5	
29		保育士はどこからでも子どもが見える	58.5		78.0		62.9		82.9		65.7		85.9	
30		おうちや教員の置場所が決まっている	65.9		87.8		62.9		94.3		65.9		89.2	
31		外へ出入りが容易で活動が戸外に展開する	61.0		58.5		65.7		42.9	※	55.7		62.6	
32		天井フックなどを利用した装飾や仕掛け	39.0		63.4		45.7		65.7		38.5		55.4	
33		乳児の遊び・活動のための壁面利用の工夫	51.2		82.9		54.3		94.3	※	53.2		77.8	
34		乳児の睡眠はベビーベッド	24.4		46.3		28.6		57.1		31.6		47.1	
35		乳児の睡眠は床置きマットや布団	43.9		87.8		45.7		85.7		48.5		84.8	
36		乳児は常設性のある睡眠環境	43.9		48.8		57.1		62.9		46.8		49.6	
37		休眠房など床付の温度調整が可能	53.7		56.1		54.3		77.1		49.3		64.0	
38		月齢や動作で分けられたコーナー設定	56.1		61.0		45.7		74.3	※	54.3		52.6	
39		乳児が見たい聞きたいと思う遊具や仕掛け	63.4		78.0		68.6		88.6	※	64.8		72.6	
40		歩行やつかまり立ちを補助する器具・家具	65.9		82.9	※※	57.1		77.1		57.3		64.8	
保育室の設え	41	乳児の視界に配慮した鏡の設置	53.7		70.7	※※	54.3		74.3		45.4		51.8	
	42	乳児の視界に配慮したモビールの設置	53.7		78.0	※※	51.4		80.0		46.3		54.8	
	43	家具や設えが子どもたちの視界を遮らない	46.3		61.0		42.9		54.3	※	54.8		69.5	
	44	コーナーをまたいだ遊び・活動の展開	46.3		56.1		57.1		71.4		48.2		55.1	
	45	活動種類・特性を考慮したコーナー配置	63.4		87.8	※	65.7		82.9		59.3		71.2	
	46	遊びが継続できる積み遊びコーナー	51.2		46.3		51.4		65.7	※※	49.3		39.3	
	47	机の上作業の際、自然光や照明が当たる	43.9		75.6		54.3		77.1		58.7		75.9	
	48	机の上作業に集中できる壁や窓向きの机とイス	53.7		70.7	※※	42.9		54.3		40.7		42.1	
	49	身だしなみを整える鏡の設置	68.3	※	75.6		54.3		80.0		49.6		63.2	
	50	水作業、外部に近い手洗い器の設置	48.8		73.2		40.0		65.7		49.3		71.7	
	51	子どもが入れ入れ可能な子ども用掃除用具設置	61.0	※	56.1	※※	57.1		34.3		45.4		37.7	
	52	動物物を置き、子どもが世話できる	53.7		61.0		54.3		54.3		54.3		57.1	
	53	子どもの準備・片付けに便利な配置コーナー	65.9		80.5		62.9		74.3		59.3		74.5	
	54	机の上遊びコーナーを利用した食事	29.3		87.8		22.9		80.0		29.4		80.6	
水まわり	55	床遊びコーナーを利用した午睡コーナー	24.4		68.3		11.4		77.1		23.5		78.4	
	56	自由に制作できる造形コーナーがある	51.2		36.6		62.9		51.4	※※	48.5		27.4	
	57	決まった制作指導用の造形コーナー・素材設置	34.1		24.4		37.1		34.3		38.2		22.4	
	58	ひとりになれる休憩コーナーがある	53.7		41.5		60.0		48.6	※※	51.2		28.8	
	59	常設コーナー以外の十分なフリースペース	53.7		58.5	※	60.0		31.4		55.7		43.8	
	60	子どもが自由に利用できる専用室	36.6		34.1		37.1		37.1		26.6		23.0	
	61	各専用室は子どもが移動しやすい配置	48.8		43.9		57.1	※	37.1		39.3		34.9	
	62	体動器具が設置された体育専用室がある	26.8		17.1		28.6		22.9		23.5		10.2	
	63	睡眠欲求に依り移動できる午睡専用室がある	31.7		14.6		37.1		22.9		27.7		11.1	
	64	食事前が一緒に食事できる食事専用室がある	34.1		22.0		40.0		31.4		38.2		22.4	
	65	子どもが食膳・片付けやすい食事専用室	41.5		24.4		37.1		34.3		40.7		22.7	
	66	子どもがみえる廊下	58.5		61.0		62.9		54.3		56.8		59.0	
	67	子ども専用キッチン、調理家電の設置	14.6		9.8		22.9		28.6		19.9		13.6	
	家具	68	手洗い器が子どもサイズで移動しやすい	63.4		90.2		62.9		88.6		64.8		90.3
69		幼形トイレは十分な広さと器具が備わる	68.3		80.5		65.7		80.0		65.1		83.1	
70		排水や洗濯の便を促す子どもトイレ	65.9		82.9		65.7		82.9		64.8		81.1	
71		乳児用トイレはひとりずつ順序よく対応できる	51.2		78.0		57.1		77.1		61.2		84.2	
72		おむつ替え作業がスムーズな水まわり設え	61.0		95.1	※※	62.9		85.7		60.4		74.8	
73		鏡やクシがあり、身だしなみを整えられる	19.5		14.6		40.0		34.3		27.1		24.1	
74		トイレ内が保育室からよく見える	39.0		34.1		48.6		34.3		51.5		45.7	
75		保育士と子どものコミュニケーションの場	29.3		36.6		40.0		45.7		33.2		38.8	
76		排泄時利用の子どもサイズ着脱用ベンチ設置	51.2		82.9	※	68.6		80.0		53.2		65.1	
77		個人のタオルかけがある	36.6		61.0		40.0		60.0		46.3		65.9	
78		子どもにとって使いやすい棚	63.4		95.1		60.0		88.6		62.3		90.0	
79		敷居・おうちやを通路ごとに陳列できる棚	63.4		95.1		62.9		94.3		62.0		86.4	
80		子ども用トレイや容器に合った棚板寸法	58.5		75.6		57.1		77.1		55.4		67.0	
81		敷居・おうちやの置場所が定まる十分な数の棚	58.5		78.0	※	62.9		80.0	※	60.4		63.4	
工	82	採用する教育思想独自の家具の設置	26.8		43.9	※※	25.7		42.9	※※	21.1		23.3	
	83	ひとり用・数人用など多様なサイズの机	41.5		58.5	※※	34.3		45.7		38.0		36.8	
	84	家具は子どもが遊び道具として取り入れる	29.3		43.9		37.1		68.6	※	32.4		40.2	
	85	机・イスは子どもが丁寧に扱える大きさ	56.1		87.8		51.4		82.9		59.6		83.7	
	86	家具が良いた材質で作られている	58.5		85.4		60.0		85.7		57.3		79.2	

χ^2 検定による有意水準 (P) ※: P<0.05、※※: P<0.01 のものを示す。
ハッチング部は、回答の割合が黒: 80%、濃灰: 60%、薄灰: 40%以上のものを示す。

表 4 施設調査概要

	施設名	所在地	施設種別	定員
Σ	Ki 保育園	神奈川県横浜	認可保育所	90 名
	Fi 保育園	神奈川県茅ヶ崎市	認可保育所	130 名
	Mu 保育園	神奈川県相模原市	認可保育所	90 名
	Em 保育園	福岡県福岡	認可保育所	270 名
	Ka 保育園	千葉県八千代市	認可保育所	120 名
工	Ya 保育園	東京都多摩市	認可保育所	180 名
	Ks 保育園	兵庫県姫路市	認定こども園	95 名

※M: モンテッソーリ教育園、H: ハンガリーの保育実践園を表す。

5. 実施園の空間事例にみる各思想の空間特性

表5では、前章のアンケート調査でモンテッソーリ教育、ハンガリーの保育実践のそれぞれが特異性を示した空間特性と、一般園でも受入れられている項目、すなわち全体回答の「重要度」「該当度」が60%以上の空間特性を整理してまとめたうえで、各思想を採用する保育施設、計7園（表4）を対象とした施設調査で得られた実際の空間事例を提示した[※]。

各思想に基づいた空間特性のなかで、一般園でも受入れられるものとして、共用部における各部設計、装飾などによる雰囲気づくり、採光・換気、保育室における視認性や空間規模の検討、水まわりにおける動線計画や規模の検討、家具設計への配慮などがあり（表5）、施設調査では、幾つかの事例がみられた（写真W-1～4）。これらは、一般園にとっても導入しやすい空間的工夫であるといえる。

表5 空間特性が反映された空間事例

モンテッソーリ教育実践園		一般園（重要度・該当度60%以上）		ハンガリーの保育実践園	
施設全般・共用部	写真W-1 (Ka)	各部設計 6 廊下・階段がまふく・歩行に適する 7 子どもサイズの階段 19 各部設計が子どもサイズ 20 子どもの目線にあった窓 12 過剰な装飾を控える 14 子どもの様子の掲示	写真H-1 (Ka) 写真H-2 (Ka)	施設全般が家庭的雰囲気 15 登・降園時集中を妨げない受入れ室 17 保育室内が家庭的雰囲気	施設全般・共用部
	写真M-1 (Ki)				
	写真M-2 (Mu)				
	写真M-3 (Mu)				
	写真M-4 (Mu)				
保育室全般	40 歩行・掴まり立ち補助器具 41 視界に配慮した鏡 42 視界に配慮したモビール 48 壁や窓向きの机とイス 49 身だしなみを整える鏡	採光・換気 21 窓の自然採光で過ごせる 25 自然換気や空気循環に配慮 視認性 28 どこでも保育士が見える 29 どこでも子どもが見える 壁面・天井利用	写真H-3 (Ka) 写真H-4 (Ka) 写真H-5 (Ka) 写真H-6 (Ka)	保育室動線 4 着脱用イスを各所設置 44 コーナーをまたぐ遊び展開 33 壁面利用の工夫 41 視界に配慮した鏡 42 視界に配慮したモビール 49 身だしなみを整える鏡	保育室全般
	写真M-5 (Mu)				
	写真M-6 (Em)				
	写真M-7 (Ka t)				
	写真M-8 (Fi)				
乳児保育室	27 布やラグを多用 45 活動ごとのコーナー配置 59 十分なフリースペース	保育室設え・規模 18 幼児保育室は規定より広い 30 おもちゃ・教具置場が定位置	写真H-7 (Ya) 写真H-8 (Ya) 写真H-9 (Ka) 写真H-10 (Ka)	27 布やラグを多用 38 月齢・動作ごとのコーナー 46 継続できる積木遊びコーナー 56 自由制作できる造形コーナー 58 ひとりになれる休憩コーナー	乳児保育室
	写真M-9 (Fi)				
	写真M-10 (Mu)				
	写真M-11 (Em)				
	写真M-12 (Fi)				
保育室の設え	76 排泄時着用脱用ベンチ 72 おむつ替えがスムーズ 水まわり動線	水まわり規模 69 幼児用トイレは十分な広さと器具 68 手洗器が子どもサイズで援助しやすい 70 排泄や着脱自立を促す子ども用トイレ 71 乳児用トイレは順序良く対応できる	写真W-3 (Mu) 写真W-4 (Ya)	専用室設置 60 自由利用できる専用室 61 移動しやすい専用室 62 体操器具常設の体育専用室	保育室の設え
	写真M-13 (Mu)				
	写真M-14 (Mu)				
	写真M-15 (Fi)				
	写真H-11 (Ka)				
各専用室	82 教育思想独自の家具 83 ひとり用・数人用の机	家具設計 78 子どもが使いやすい棚 79 種類ごとに陳列できる棚	写真H-12 (Ya)	82 教育思想独自の家具 84 家具を遊びに取り入れる	各専用室
	写真M-15 (Fi)				
	写真H-11 (Ka)				
	写真H-12 (Ya)				
	写真H-12 (Ya)				
水まわり	81 置場が定まる十分な数の棚	家具設計 78 子どもが使いやすい棚 79 種類ごとに陳列できる棚	写真H-12 (Ya)	82 教育思想独自の家具 84 家具を遊びに取り入れる	水まわり
	写真M-15 (Fi)				
	写真H-11 (Ka)				
	写真H-12 (Ya)				
	写真H-12 (Ya)				
家具	81 置場が定まる十分な数の棚	家具設計 78 子どもが使いやすい棚 79 種類ごとに陳列できる棚	写真H-12 (Ya)	82 教育思想独自の家具 84 家具を遊びに取り入れる	家具
	写真M-15 (Fi)				
	写真H-11 (Ka)				
	写真H-12 (Ya)				
	写真H-12 (Ya)				

※（ ）内は調査を実施した4の施設名を表す。※ハッチング部は各思想に有意性がみられた空間特性で、かつ一般園でも重要度・該当度が60%以上であったもの。

思想に基づく空間特性を、実際の空間に反映する際のそれぞれの思想の実施園での工夫を、思想ごとに以下に考察する。

モンテッソーリ教育実施園では、乳児保育室に歩行・掴まり立ち用の手すりの設置や、睡眠スペース周辺の鏡、モビールの設置への

対応として、保育室における壁面・天井面の利用や工夫がみられた(写真 M-2~6)。保育室では主に教具を用いた子どもの自己活動が中心となるため、活動ごとのコーナー設置、床作業用フリースペースが常設的に要求される(写真 M-9, 10)。Fi, Mu 両保育園では、ランチルームを確保して模様替えをおこなわないことで、室内の常設性を確保していたが、模様替えを要する場合には、保育室の十分な空間規模の検討が必要といえる。教具は種類、段階ごとに定位置に陳列され(M-15)、ひとり用、数人用(M-14)、対面、壁向き(M-5)などの多様な家具や設えが、意図する教育活動の提供につながっていた。また、保育室内の子ども用掃除用具(写真 M-7)、水まわりの排泄時着用脱ベンチ(写真 M-11)などは5つの全ての実施園で、行為、活動と近接する位置に備えられていた。

ハンガリーの保育実践園では、家庭的な雰囲気づくりがなされており、Ka 保育園では各所にカウンターを設えて装飾を施し、雰囲気づくりに取り組む様子がみられた(写真 H-2)。乳児保育室ではモビール(写真 H-4)、壁面の仕掛け(写真 H-6)など、モンテッソーリの場合と同様に、壁面・天井を利用した発達ごとの設えの工夫がみられた。保育室では子どもの主体的遊びが中心となり、特に遊びの継続性が重要視される。そのため、積木(写真 H-9)コーナーをはじめ、各コーナーの常設設置が可能な空間規模の検討や、遊びがコーナーをまたいで展開するような、子どもの動線計画への配慮が必要であるといえる。また Ka 保育園では、造形コーナー(写真 H-10)の机・イスを食事コーナーとして転用することで、保育室内の常設性を確保していた。遊びの広がりの中かで、家具を取り入れて展開できるよう、Ya 保育園では、子どもが扱いやすい家具を選定し、備える様子がみられた(写真 H-12)。さらに、登降園時において、子どもの遊びの集中が妨げられない配慮として、調査した2園ではいずれも、保育室に隣接する受入室を完備し対応していた(写真 H-1)。

各思想に特異性を示した空間特性ではあるが、上記の空間事例をみると、なかには「保育指針」に基づく空間づくりにおいても、導入できる工夫もあるのではないかと考えられた。

6. まとめと今後の課題

本稿では保育現場で採用事例が多くみられるモンテッソーリ教育、ハンガリーの保育実践のふたつの思想に着目し、これらの思想に基づく空間特性が「保育指針」に基づく空間づくりのひとつの在り方となり得るかを明らかにすることを目的として、文献や記述からの出現言語、アンケート調査、空間事例による分析をおこない、次のような結果を得た。

①出現言語の分析では、「保育の環境」や「教育」などのグループで抽出された独自の出現言語が各思想の基本原則における特異性を示すものである点、「保育指針」と各思想に幾つかの共通言語がみられたことから、「保育指針」が各思想を包含するものである点が示唆された。

②出現言語分析で抽出された各思想独自の言語を用いて、空間特性に関する質問項目を作成してアンケート調査を実施し、実施園の回答の有意性から各思想の空間特性の特異性を、全体回答から各思想と「保育指針」との空間特性の共通性をみた。その結果、「乳児保育室」、「保育室の設え」、「家具」グループなどの項目で、各思想の実施園に幾つかの有意性が確認でき、これらが保育施設の空間特性

における、思想ごとの特異性である可能性を示した。また各思想に基づく空間特性のうち、一般園でも受け入れられる項目がみられたことから、各思想の空間特性の中に「保育指針」との共通性があることが確認できた。

③施設調査では、各思想の特異性を示した空間特性が各思想の実施園において確認できた。これらの空間事例を通して、空間特性が実際の空間に反映される際の具体例を提示できた。また、それぞれの思想に基づく空間事例であっても、なかには一般園でも導入できる工夫もあるのではないかと考えられた。

本稿では、モンテッソーリ教育、ハンガリーの保育実践の空間特性における特異性を、少ないながらも確認することができた。また、各思想に基づいた空間特性のなかには、「保育指針」に基づき保育をおこなう一般園でも導入されやすい項目も認められた。以上のことから、各思想に基づく空間が、一般園における良質な空間づくりのヒントとなる示唆を含むものであったといえる。

「保育指針」は本稿で着目したふたつの思想を含め、さまざまな保育・教育思想を包含しているとも考えられる。日本の保育現場では多様な思想が採用されることから、今後は、他の思想も含め、さまざまな規模や実践度での空間事例の検証を通じた研究の蓄積を図っていくことが課題である。

謝辞

研究助成を頂きました一般財団法人第一生命財団および、調査にご協力を頂きました皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 民秋言：幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立，萌文書林，2014
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針解説書，フレーベル館，2008
- 3) 内閣府，文部科学省，厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説，2015
- 4) 今川峰子：幼稚園児の社会的行動に影響する保育空間と保育理念，*NERA Journal=人間・環境学会誌* 2(2)，pp.21-27，1996.6
- 5) 遠矢容子，小野理映子，小川信子：保育施設空間に関する研究・その1—保育方法と保育空間の関わり—，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，pp.175-176，1996
- 6) 細谷俊子，積田洋，鶴崎有：保育園の室内遊びにおける異年齢交流と室内構成との相関分析，日本建築学会計画系論文集，第 639 号，pp.1029-1035，2009.5
- 7) 西本雅人，河合慎介，田和佐知子：異年齢保育における保育室のコーナー設定の変更サイクルに関する研究—京都府近郊の保育施設での異年齢保育におけるコーナー設定のケーススタディー—，日本建築学会大会学術講演梗概集，建築計画，pp.401-402，2014
- 8) 伊藤有宏：フリードリッヒ・フレーベルと建築—フレーベルの構想した幼稚園建築とその環境の考察—，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，pp.291-292，1998
- 9) 川上正倫，伊藤泰彦，千田満，矢田努：日本におけるシュタイナー幼児教育空間に関する研究—教育理念と空間の関係性について—，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，pp.293-294，1998
- 10) 神成健，初見学：モンテッソーリ教育と幼稚園の計画—オープンエジュケーションと幼稚園の計画に関する研究—，日本建築学会関東支部研究報告集，第 55 号，pp.281-284，1984.7
- 11) 高橋節子，元岡展久：モンテッソーリ保育所における物理的環境—非モンテッソーリ保育所との比較による検討—，日本建築学会技術報告集，第 44 号，pp.207-212，2014.2
- 12) 橋本都子，中田和葉，高橋鷹志：レジジョ・エミリアの幼稚園に関する調査報告—イタリアの教育施設に関する研究その 1—，日本建築学会大会学術講演梗概集，建築計画，pp.177-178，2012

- 13) 山田朝子, 千島亜美, 本杉一磨, 真崎学, 初見学, 垣野義典, 松田雄二: フィンランド幼保一体型保育施設の平面構成から見る空間特性ーフィンランドの就学前保育施設[パイバコティ]に関する研究 その1ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp.147-148, 2011
- 14) 本杉一磨, 他: チーム保育の実践と保育者の見守りから見る空間特性ーフィンランドの就学前保育施設[パイバコティ]に関する研究 その2ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp.149-150, 2011
- 15) 千島亜美, 他: 異年齢グループ保育の活動実態を背景とした子どもの活動から見る空間特性ーフィンランドの就学前保育施設[パイバコティ]に関する研究 その3ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp.151-152, 2011
- 16) モンテッソーリ, M.: モンテッソーリ・メソッド, 明治図書出版, 1974
- 17) 白川蓉子: 「モンテッソーリ・メソッド」入門, 明治図書出版, 1986
- 18) モンテッソーリ, M.: 幼児の秘密, 国土社, 1968
- 19) モンタナーロ, S.: いのちのひみつ, KTC 中央出版, 2003
- 20) バコニ, P.他: ハンガリー保育園の教育プログラム, 明治図書出版, 1974
- 21) コダーイ芸術教育研究所: 新訂乳児の保育・幼児の保育, コダーイ芸術教育研究所, 1990
- 22) 谷田貝公昭: 新版・保育用語辞典, 2016

注

- 注 1) 保育施設はその施設形態により, 幼稚園教育要領, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 保育所保育指針に基づき保育をおこなっているが, 本稿では主に保育所保育指針を中心にとりあげている。
- 注 2) 保育所保育指針はその冒頭(保育指針第1章1(2))で, 「各保育所は, この指針において規定される保育の内容に係る基本原則に関する事項等を踏まえ, 各保育所の実情に応じて創意工夫を図り, 保育所の機能及び質の向上に努めなければならない」とし, 保育形態や内容といった保育実践の具体的方法論は, 個々の保育所の裁量に委ねている。
- 注 3) アメリカでは, 幼児版保育環境評価スケール ECERS (Early Childhood Environment Rating Scale), 乳児版保育環境評価スケール ITERS (Infant and Toddler Environment Rating Scale) などの保育環境評価スケールが開発され, 個別の保育プログラムでの自己評価や保育の質向上に用いられている。評価項目には空間や家具に関する項目も含まれている。
- 注 4) 本稿における「空間特性」とは, 言語表現を用いた, 保育施設の諸要室, 家具などにおける空間・部分の状態や有様を意味する。保育・教育思想による特性をみるという観点から, 敷地条件や関係法令等により影響を受けられると思われる配置計画, 建物規模などは対象としていない。
- 注 5) 本稿では, 日本の保育施設における応用という観点から, 保育・教育思想の基本原則を基に日本の保育施設で独自に普及・発展した保育・教育思想を主に扱う。従って調査対象を, 原理主義的に実践するハンガリー国内の保育施設とはしていない。
- 注 6) 質問項目作成上, 同義の別の名詞や文章として言い換えたものもある。
- 注 7) x2 検定は, ①モンテッソーリ教育実施園とそれ以外の全て, ②ハンガリーの保育実践実施園とそれ以外の全て, の比較によるものである。
- 注 8) 提示した事例は, 施設調査において実践のみられたもののみであり, 有意性がみられた全ての項目ではない。

SPATIAL CHARACTERISTICS OF CHILD CARE FACILITIES WHICH BASED ON A THOUGHT OF CHILD CARE AND EDUCATION

Case study on the Montessori education and the Hungarian childcare practice theory

Kazuko SHIRAKAWA * and *Mariko SADAYUKI* **

* Grad. Student, Graduate School of Human Life Science, Division of Living Environment, Japan Women's University, M. Eng.

** Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's University, Dr. Eng.

The purpose of this research is to provide spatial characteristics which based on childcare and educational ideals of each child care facilities. In this study particularly focuses on "The Montessori education" and "The Hungarian childcare practice theory" which are highly adopted in Japan. To know the spatial characteristics of each educational thought, we analyzed by appearance languages from descriptions of which each method and "A national guideline for daycare center for children ("a national nursing guideline")", questionnaires and field surveys. The results of these analyses are as follows.

1. There are many common appearance languages between an each educational thought and "a national nursing guideline". It is also found that there are several original languages of an each educational thought, such as "environment of nursing" and "education techniques". It means that the same concept is included in an each educational thought and "a national nursing guideline".

2. Referring to appearance languages from descriptions, a questionnaire survey is conducted. As a result, "baby nursery room", "equipment in the nursery room" and the "furniture" groups are mainly significant difference from the general child care facilities. This research figures out original spatial characteristic which required by these two educational thought. Also, among the spatial characteristics based on each educational thought, items that can be accepted in general child care facilities were also seen, so it was confirmed that there is commonality with the "childcare guidelines" among the spatial characteristics of each educational thought.

3. In the field surveys, it makes clearly that original spatial characteristic is reflected in a space by actual each educational thought facilities.

In this research, several significant differences in the spatial characteristics of the Montessori education and the Hungarian childcare practice are indicated by questionnaires. And it can be said that the spatial characteristics based on each educational thought, items that are easy to accept even in general child care facilities. From the above, it can be said that space making intended along a concept of special educational thought could be also evaluated as one of the space which based on "a national nursing guideline". It should be important for the child care facilities with high quality of good nursing and educational environment to know the basic spatial characteristics of each educational thought by a number of case studies on the various scales and the degree of practice.

(2016年6月9日原稿受理, 2016年12月16日採用決定)